

LOBO 調査

早期景気観測

12月 日商調査日 12月7日～18日
当所調査日 12月7日～20日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査
12月の全産業DI ▲8.4
(前月比+1.3ポイント)

○中小企業の景況感

製造業では、自動車関係や飲食品関係の需要増がけん引し、改善した。また、サービス業では、経済活動の回復に伴い、忘年会などの年末需要が増加した飲食・宿泊業を中心に改善し、卸売業でも、飲食・宿泊業からの引き合い増加で改善した。一方、建設業では、公共工事の受注が下支えする中、資材価格の高止まりでほぼ横ばいにとどまり、小売業では、物価高による消費者の買い控えの影響で悪化が続いている。エネルギー価格の高騰や人手不足に伴う人件費の増加など、コスト増は業種を問わず続いている。また、深刻な人手不足や適正な価格転嫁への対応など、経営課題は多く中小企業の業況は7か月ぶりに改善を示すも、力強さを欠いている。

○先行き

先行き見通しDIは▲14.3
(12月比▲5.9ポイント)

年始の初売りや次年度に向けた準備など、個人消費や設備投資の拡大に向けた契機がうかがえるものの、長引く物価高による買い控えやコスト増に伴う企業収益の圧迫により、全産業で悪化が見込まれている。また、国内需要が力強さを欠く中、深刻な人手不足や価格転嫁への対応など、企業経営の足かせは多い。加えて、欧州・中国などの海外経済の不安定さも重なり、先行きは厳しい見方が続いている。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

最低賃金の引き上げにより、現在の給与体系では最低賃金を下回るケースが出てきたため、給与体系を変更した(電気通信工事業)

暖冬の影響により、防寒用品の売れ行き悪く、売上が伸びない(商店街)

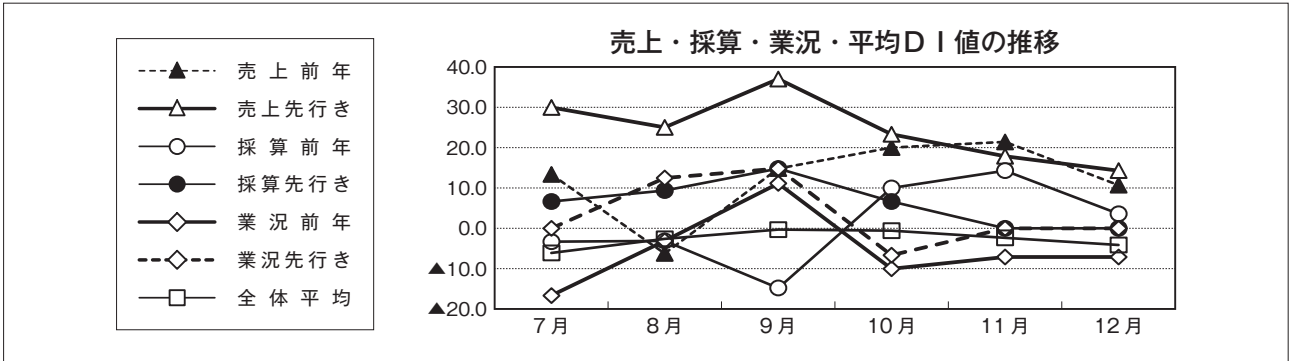
【景況感悪化、依然人手不足の影響大きく】

依然人手不足の影響大きく

三所調査
全体平均DIは▲4.2で前月に比べ▲1.8ポイントの悪化。項目別では、売上前年▲10.7ポイント、採算前年▲10.7ポイントの悪化が見られた。コメントには「値上げにより単価は増加しているが、人手不足のため売上目標に達していない」(一般乗用旅客自動車運送業)や「業況回復の兆しはあるが、安定感はなく、従業員確保が課題だ」(家具小売業)といった、人手不足による影響が伺えた。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和4年		令和5年					
	12月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
売上前年	▲ 3.1	13.3	▲ 6.3	14.8	20.0	21.4	10.7	
売上先行き	▲ 15.6	30.0	25.0	37.0	23.3	17.9	14.3	
採算前年	▲ 18.8	▲ 3.3	▲ 3.1	▲ 14.8	10.0	14.3	3.6	
採算先行き	▲ 31.3	6.7	9.4	14.8	6.7	0.0	0.0	
仕入前年	▲ 75.0	▲ 80.0	▲ 65.6	▲ 74.1	▲ 66.7	▲ 67.9	▲ 71.4	
仕入先行き	▲ 65.6	▲ 73.3	▲ 62.5	▲ 66.7	▲ 60.0	▲ 67.9	▲ 53.6	
社員前年	18.8	33.3	31.3	22.2	23.3	28.6	32.1	
社員先行き	15.6	26.7	28.1	29.6	33.3	28.6	25.0	
業況前年	▲ 12.5	▲ 16.7	▲ 3.1	11.1	▲ 10.0	▲ 7.1	▲ 7.1	
業況先行き	▲ 12.5	0.0	12.5	14.8	▲ 6.7	0.0	0.0	
資金前年	▲ 12.5	▲ 3.3	▲ 3.1	▲ 3.7	16.7	3.6	3.6	
資金先行き	▲ 15.6	▲ 6.7	6.3	11.1	3.3	0.0	▲ 7.1	
全体平均	▲ 19.0	▲ 6.1	▲ 2.6	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 2.4	▲ 4.2	



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数-減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。